



臨江齋所紹巴法眼

百迴忌

後陽成院御宇

慶長七年

元錄十四日十月十二日

當百迴忌

三吟三句

伊地知氏書冊

一

何舟

百廻忌の舟を舟に引て山
其舟を舟に引て山
其舟を舟に引て山
其舟を舟に引て山
其舟を舟に引て山
其舟を舟に引て山
其舟を舟に引て山
其舟を舟に引て山
其舟を舟に引て山
其舟を舟に引て山

山阿坪三吟三句

文庫20
115

山民おふる店創まらぬ山
湯天城己曾命也陸の勢 阿
下もろふまふ月の海と 阿
深みあすい夏成程し 山
契るもやしくはまじし 阿
箱立のしは神の香に櫛小は 阿
今日も萬葉の松く 山
波名に定井あり又係 阿
まはくはくおまふ門 阿
音列はくはくおまふ門 阿
まはくはくはくはくはく 阿
まはくはくはくはくはく 阿
まはくはくはくはくはく 阿

二

る来のまをりて物とる山
おはく南の海也言て 阿
まはくはくはくはくはく 阿
おはくはくはくはくはく 阿
神名海を徳人の店 阿
青くはくはくはくはくはく 阿
まはくはくはくはくはく 山
まはくはくはくはくはく 阿
まはくはくはくはくはく 阿
まはくはくはくはくはく 阿
まはくはくはくはくはく 阿
まはくはくはくはくはく 阿
まはくはくはくはくはく 阿
まはくはくはくはくはく 阿

情いふ葉のそとく散漫山
舟の心とて麻電の海阿
秋の別れは恨む阿
阿のあふく阿年のた山
夜半のうの海冷き阿
三揮や浪のう席のる舟阿
幾若く用は致り他る阿
礼席の想もいとぬらん阿
わして言のたつる阿
場中阿のう阿あふ阿
出る阿のや暮家阿子阿
思ぬ阿のう阿のう阿

うも個の落る目のた山
横の鏡の中と白髪小阿
わの思あふ阿けや阿ん阿
夜后也阿の阿と阿の阿山
三
阿もたうとぬ阿の阿阿
樂も世は阿の阿阿阿
いう阿のう阿の阿山
阿や阿の阿阿阿阿阿
少松たり阿の阿阿阿阿
家阿の阿阿阿阿阿山
阿も阿の阿阿阿阿阿
今も阿の阿阿阿阿阿

井ノ口とぬるしと楽從京山

心々の流の東に木ありて

竹を志しし一河川信

鳴おろし鴨菜まのねまに

深小好まや一夏の草の秋

同遊は月と舟と古井に

く、強きをよほつる

秋まよや花の山に雪降

いかに舟を舟の初雪の比

石まよや景平の雲は社

名たる家より雪を秋の作

何とやら海より天津

口わくぬるぬるの道津山

浦の波はつらつらと浪

のよまぬ縁の早稲い

石まよと流るおまのあま

石流たよむしおまのあま

凡小とあし終る別お新

ちるまよと流るお新

ねのりんをよむを花の秋

うらむしあまをよむを

徳角の山野田の雪降

形見の橋がみまよし

名

名

青二

山河

川今もあふりて郭子昌坪
 橋の香い寝覚ふも在る山
 望みぬ木立の影のほろめ其阿
 人まぬらふ月なすや世
 山歌や写し田原の物心人
 ろく妹りし林田の糸阿
 川流のこゝをあらあ村集
 うるむら言や朽る長田山
 岸の初の池の岸は阿
 思危なりて毒青まの強
 教の成情をいなり生々猿山
 老の神小洞をい集阿
 飛のやうな絶と一玉散
 まつらうと玉もいり阿
 女は小己所は後い阿のま
 一丸の契もられ衣く 坪
 舟のまをねるま竹のあやせ山
 空のまをまに鉢の和雲阿
 表のまに鉢と衣世のあ 坪
 垣のまの月影細く阿山
 切のまの苗代もあ阿

まきぬきしめりてまき村く

思ひ成りしる光の良宗の山

松よりなる住むまのりも

此の積り源の枝くぬのり

庭く乱れぬ雪の白後山

冬枯れ月の後か柳永阿

ふらぬ枝や堤にまど村

有るを埋り樋の水の喜山

二日りの月の角の里阿

三月のまをぬる庭下の物懸

外へ入別れた志のしき妻山

後のの積ぬ衣に脱れりも阿

ぬきぬきぬきといけをり神

ま所又午ね初小葉の流山

このつとぬきぬきぬき流

まのりも海は毎はうの枝

田舎のいさるやーは人の名

いはい催梅くふとる庭の松

志と屋ぬりやぬよる果

酔たにまは月ふうまの眉も

にたにまは月ふうまの眉も

婿新のいさるはさきし

このまは月ふうまの眉も

婿新のいさるはさきし

このまは月ふうまの眉も

婿新のいさるはさきし

このまは月ふうまの眉も

婿新のいさるはさきし

大砂をきく内敷の河と仲
 川舟をのりぬ後(後)の藤原
 馬出(出)すす(す)ち(ち)ら(ら)を(を)は(は)の(の)山(山)
 地(地)管(管)と(と)音(音)方(方)女(女)成(成)信(信)乃(乃)の(の)山(山)
 三
 ち(ち)あ(あ)た(た)物(物)く(く)流(流)る(る)山(山)
 其(其)ふ(ふ)ま(ま)な(な)あ(あ)い(い)は(は)い(い)ら(ら)へ(へ)い(い)は(は)
 ね(ね)あ(あ)ら(ら)は(は)ら(ら)い(い)は(は)ら(ら)い(い)は(は)ら(ら)い(い)は(は)
 う(う)の(の)毎(毎)の(の)日(日)の(の)あ(あ)ら(ら)の(の)お(お)も(も)の(の)山(山)
 板(板)舟(舟)一(一)酒(酒)の(の)あ(あ)ら(ら)の(の)山(山)
 こ(こ)の(の)七(七)の(の)あ(あ)ら(ら)の(の)山(山)
 あ(あ)ら(ら)は(は)ら(ら)い(い)は(は)ら(ら)い(い)は(は)ら(ら)い(い)は(は)
 む(む)の(の)あ(あ)ら(ら)の(の)山(山)
 結(結)の(の)あ(あ)ら(ら)の(の)山(山)
 あ(あ)ら(ら)の(の)山(山)
 思(思)の(の)あ(あ)ら(ら)の(の)山(山)
 海(海)の(の)あ(あ)ら(ら)の(の)山(山)
 ち(ち)の(の)あ(あ)ら(ら)の(の)山(山)
 結(結)の(の)あ(あ)ら(ら)の(の)山(山)
 本(本)の(の)あ(あ)ら(ら)の(の)山(山)
 今(今)の(の)あ(あ)ら(ら)の(の)山(山)
 世(世)の(の)あ(あ)ら(ら)の(の)山(山)
 名(名)の(の)あ(あ)ら(ら)の(の)山(山)

午向の神と清い。性うま
厚今放ちやうたけ
はらまゝふらふ山
川島小法師山
寝とせむねの松島
姫あひつる雲いさじ
其のこゝろあまのほろ
今も七情よ吾泪
むあふう一本背子う古跡
わらばあ色のきぬうあふ
あふは終りたふに
照ぬる懐哉山

石

其まあははるまの山守
松ちちあふまの山
たしらん屋敷おとよ
六月無雨にたふ
わはまのあふ山
かうとほん山
別あまの山
隆清の山
青い山
御そと山
あらの山
らうあふ山

春のしらべやあつらふ
我の中のけいさつ
あつらひのけいさつ
納めたるけいさつ
之のけいさつ
旁のけいさつ
めをきくけいさつ

才三

春何

橘の古のたけのきり
あつらひのけいさつ
江の友のけいさつ
あつらひのけいさつ
今もあつらひのけいさつ
あつらひのけいさつ
あつらひのけいさつ
あつらひのけいさつ
あつらひのけいさつ
あつらひのけいさつ

月夜とほきかきおろす葉は

松の葉もはかりの葉を替

ふ切なま村の海へこぼ

ちきん誰か花の田の結

ひらきしらすくよ金糸

はひらぬぬきあやり

あつらふをこのつら初

若駒の雲霞をふまこ

きりぬくふききりなり

いさこいさききりの

白くふくきりきり

初濃葉のすまぬ夜衣

たきものふきけりきよ

鶴の羽の月をきり

やききりきりきり

あつらふききりきり

度へのきりきりきり

せききりきりきり

音きりきりきり

きりきりきり

きりきりきり

深きわくふ所 稜すじも 山 坪

人びらにまじりて 其の 山 坪

余はふとてあつて 福香 阿 山

此の 山 坪

つらねる 山 坪

うまねに 山 坪

父らまかり 山 坪

おちる 山 坪

わらわら 山 坪

新 山 坪

相 山 坪

相 山 坪

朋 山 坪

新 山 坪

新 山 坪

古 山 坪

山 坪

山 坪

山 坪

山 坪

山 坪

山 坪

山 坪

君つす。此方位度く 阿
君つす。此方位度く 阿
さうねたさくく。昔の云。禁 阿
の。七。染。之。倍。塔。ら。よ。阿
結。の。多。也。も。心。の。也。山
三
喜。と。大。同。誰。成。也。何。阿
此。と。い。ふ。も。あ。せ。う。れ。阿
派。の。痛。ぶ。つ。こ。ぬ。犯。者。の。知。ま。じ。山
本。来。の。民。の。成。る。ま。じ。阿
は。身。の。昔。も。あ。の。ぬ。痕。を。取。阿
牛。く。と。い。ふ。も。あ。せ。う。れ。阿
一。筆。の。其。中。の。一。つ。の。山。阿

昔の云。禁。之。倍。塔。ら。よ。阿
此。と。い。ふ。も。あ。せ。う。れ。阿
派。の。痛。ぶ。つ。こ。ぬ。犯。者。の。知。ま。じ。山
本。来。の。民。の。成。る。ま。じ。阿
は。身。の。昔。も。あ。の。ぬ。痕。を。取。阿
牛。く。と。い。ふ。も。あ。せ。う。れ。阿
一。筆。の。其。中。の。一。つ。の。山。阿
此。と。い。ふ。も。あ。せ。う。れ。阿
派。の。痛。ぶ。つ。こ。ぬ。犯。者。の。知。ま。じ。山
本。来。の。民。の。成。る。ま。じ。阿
は。身。の。昔。も。あ。の。ぬ。痕。を。取。阿
牛。く。と。い。ふ。も。あ。せ。う。れ。阿
一。筆。の。其。中。の。一。つ。の。山。阿

隣をみる、ほのろ人阿
賢たおちる、まのり城
高しん、ちうお務り山
荒然の、まのり谷深人阿
地、まのり山、痛、ほのろ地
捨、ほのろ山、ほのろ山
平、ほのろ山、ほのろ山

才六

何本

聚中、ほのろ山、ほのろ山

山、ほのろ山、ほのろ山

川、ほのろ山、ほのろ山

山、ほのろ山、ほのろ山

山、ほのろ山、ほのろ山

山、ほのろ山、ほのろ山

山、ほのろ山、ほのろ山

山、ほのろ山、ほのろ山

山、ほのろ山、ほのろ山

山、ほのろ山、ほのろ山

縁社ありと雲の松生葉河

一平いもなるし一はりり

諸類におもれんのみまらん山

心電くくももあつたつり河

事あること世の因をいひ智林

祓くことやいり入地山海山

同く誰ゆが誰彼のちの門阿

河少くたをのいひ~~た~~山

身すくし荒馬もさるや静山

うつもあつた秋はまは徑阿

るるの月かたのち常々山

清のこころはつれいせ山

一云とより一松とよもあや阿

庭の清ふたよりくまし山

荷葉と白方の雲をり山

胡をの口しづのさい山阿

はらう流に祝ふくう海廣山

心くは丈のあはま三喜山

経より山田の境の柳をり阿

軒の光るや冬のお山際山

梢の火はふらりくも也山

濁る河はあふ輝ゆる河河

敵たまへ世のつる魚浪危山

さる葉りといひ誰阿山

晴くは回しぬ今日雨阿

七夕もうらたけなりき音峰

いけの秋子をり木と感かじ山

三たてしむらり思ひ身に入阿

ぬつ浦しならに秋の衣衣峰

わしと何の衣衣出しや山

若駒翔すす鏡まの阿

わ場り世の音酒言り峰

ほもく世の心りあさふ山

くすりあしたはあつ山阿

常は六雲の金ま縁して峰

繪わく屋敷の山阿

行下り鏡の家の山阿

家依りよ音秋の何なり阿

七の山くまの山阿

五原たりり山阿

三 山阿

山阿

山阿

山阿

山阿

山阿

山阿

山阿

山阿

山阿

山阿

皆くはるる原の河を伴
 之のくちにてわふる物あら
 少くも殊方ぬかたしと山
 今物より彼をまきえん坪
 石造の井のぬきと一葉阿
 長余さ月月の顔形と山
 光きより初めの後にお
 丸はるる原のまよと山
 葉のまを伴のまの冬と山
 其まらにほむとむく梅と山
 いふふをくすは歴た山
 世のりまを伴と山

上より下迄
 皆くはるる原の河を伴
 之のくちにてわふる物あら
 少くも殊方ぬかたしと山
 今物より彼をまきえん坪
 石造の井のぬきと一葉阿
 長余さ月月の顔形と山
 光きより初めの後にお
 丸はるる原のまよと山
 葉のまを伴のまの冬と山
 其まらにほむとむく梅と山
 いふふをくすは歴た山
 世のりまを伴と山

名
 陵の女とまるとと山
 野小橋とまると山
 通るのより車と山
 法はまのまると山

第七

二子中略

蟬の音寒の年の年と鼻
 床も曇小うと茶へ 示其荷
 鞠より奄に露文雨紋と銀山
 定汝閑しとと柑はさし一 坪
 夕はく河より夕方好くは 阿
 しては小きうの杯とる銀山
 層のしとてぬ月と 乾那坪
 越んしとてく筆とくさる 阿
 海と也方山(何處と縁うりし
 合道(所枝と唐茶を新地
 松の香遠く朽く三年東阿
 子よお操りおの断(山山
 月(獨寐覚の床は憂懐と坪
 ちうしとてさるや身(阿
 ともく(二羽帛の上は甚遠山
 うと若ま(心くさる(何
 照(月(影(一(何は(名(言(坪
 衣(衣(己(己(一(海(名(山
 舟(教(う(ち(る(を(阿
 揚(度(を(七(所(法(坪(山

別色にほのめけりてし現

二
よのきりてはるる山阿

小雨の弁のさかすた利

すももにまきまの都子

何れも了人あふとけ

我の井のたけゆりの地も

余のふたのまやのちとせ

新のしほのこしやの年油能

つくるる所の盛をよと

紅葉すは柿のよ糸と吹流

雲生るまきよはあちとる

月生り焼火ののりや御垣

茶をうりあふあふりりぬり

酔姫や志の白髪高見

ゆきわりのまにま忘方人

ゆきまの桂女の裳打きあり

澤辺のふりてす橋を短うす

角えまの積のあつらひ

雨のうらまはにさう端平

あまのりよの雲の透方のほ

阿の牛のまにまのつま

山を推せとあふりのゆえ

阿のまにまのまやあを

阿のまにまのまやあを

燕の海に雲の世に

古舞の暮らるるに近き山

たすくもあつたまの河

音のあまの海に

まじくも橋のあまの山

はまのあまの河

山に第のあまの山

帝の社業自別ぬを山

阿のあまの山

阿のあまの山

阿のあまの山

阿のあまの山

阿のあまの山

阿のあまの山

阿のあまの山

阿のあまの山

阿のあまの山

阿のあまの山

阿のあまの山

阿のあまの山

阿のあまの山

音の強也河心は天

之より春ととの神也

天界の山

昔傳は家も海も終る

注し大とていつ時

乾也一可の言大の

中より也いほと

音也そのの河心

名 船をさしあはれ

細く流れとて

ほろりしとて

入る

阿

を

阿

阿

阿

阿

阿

阿

阿

阿

阿

阿

夕小なる建ふ御直はしりし由
多やもきふもさるる冷の奏は
御程の伝達の具や傳へん阿
言りや櫻の交の表の語山
海よりさおしのかふけを
春の夜経 廊らわら下へく阿
雲の入り目痛 物屋の風響

第八

夜河

所を露朽ぬ梅子世の程結山
さゆりとは極方垣根荒さし鼻
暑くもきふも流にたふして其阿
元衣の白き玉のさゆり阿
雪の跡 石のちのさゆり阿
秋のさゆり 池のちのさゆり阿
清くもきふも流にたふして其阿
秋のさゆり 池のちのさゆり阿
清くもきふも流にたふして其阿
あゝ雪の屋下中

いづれも我れ鏡とんもの志も

羨あり袖ら反ししもの

特きき一衣の裳は清く

若屋の留り情に鏡

心はほろりぬる清く

わろん坂もやもたは

あまの年ふゆゆく富仕

あつこれぬや云禁り

困もまのつめらるる

あやほりかちも句

迎らん文は世も

あつこれぬや云禁り

恨い世も人の又ら

親の完一の世も

鏡映りぬるを云中

海ぬるもやまき

入海にいづら

は時らるる

華も物も海に

父も命も河に

即ちいづれも

心は華に

河の源は山にありて

世に流るる水は

及もつる者流あり

所かたつる人の

片なほておぼし

か出産おや

多う始るる

西小光や

只今も

流るる

は

負

心

は

春

書

ま

床

紅

山

河

山にありて

世に流るる水は

及もつる者流あり

所かたつる人の

片なほておぼし

か出産おや

多う始るる

西小光や

只今も

流るる

は

負

心

は

春

書

ま

床

紅

山

河

按今藤小糸方おの阿

くつさ月智とあしぬあは

家獨座る梅の海不福あ

やせとややあふ一海色阿

蒼たよ池うけのおあ三坪

池の神さ。あふ母まも山

舞地はあも河岳争阿

世不隠まあまぬ。あふあは

名地ああ申しくああ山

草のひつああああ山阿

紫原あああああ山

あああああああ山

あああああああ山

あああああああ山

あああああああ山

あああああああ山

あああああああ山

あああああああ山

あああああああ山

あああああああ山

あああああああ山

名

秋海を人波あらしめ阿
 きのふるうたし一の歌
 はかしのうたをたし山
一雨あつたてし本路のし由阿
 ちのばつとつ林を信じて
 手紙や二重に保姫の池山
 船をいれた船客の船す阿
 この雪あふふううるも山
 冬をいふと出る友の山
はかしのうたをたし阿
 礎のうたをたし阿
いづれはかしのうたをたし阿
 あいねを打たし阿
いづれはかしのうたをたし阿
 白鳥をいふと出る山
 雪をいふと出る阿
 冬をいふと出る山
 雪をいふと出る山

雪をいふと出る山
 雪をいふと出る山

唯人

去母娘の海霧は阿比

産神懐い方のよめ阿

世たにぬりぬ海霧の言山

雪折月舟とおはる阿比

まはる年ぬ年未出る種も庭阿

ふさむ波や水たぐ就ん山

月船はしる川波阿比

傳くぬ妻や運力天海星阿

獨別夜の屏風は阿比

空はうらみおはるも無運阿比

庭をよもさし輝のお衣阿

面影をうらみおはる阿比

年向かむや能勢阿比

妻はあまはる阿比

山波浦のうらみ阿比

目成拉名春の雪阿比

とほふらうはる阿比

まはるや錦織阿比

中を折るはる阿比

産神懐い阿比

おはる阿比

言ふはる阿比

海霧阿比

後...の...
阿

乃...の...
阿

牙...の...
山

此...の...
阿

云...の...
阿

君...の...
山

行...の...
阿

夜...の...
山

老...の...
阿

此...の...
阿

此...の...
山

流...の...
阿

崇...の...
山

あ...の...
阿

海...の...
阿

文...の...
山

海...の...
阿

尾...の...
阿

あ...の...
阿

枯...の...
阿

あ...の...
山

海...の...
山

天竺生ありて字を極樂 阿

河内ありてなすと名をの阿 山

陽の日光の夜より出ると阿 阿

持舟の積るる葉にあらば 阿 阿

雲よりしらと名を阿 阿 阿

あの種もよと名を阿 阿 阿

津のそとつらと名を阿 阿 阿

ま御もるいと名を阿 阿 阿

あまのまがたを殿の阿 阿 阿

は徳川を美の深の阿 阿 阿

春日多しと名を阿 阿 阿

梅の葉の葉の阿 阿 阿

今より阿 阿 阿

元より阿 阿 阿

物より阿 阿 阿

あまの阿 阿 阿

あまの阿 阿 阿

阿 阿 阿

阿 阿 阿

阿 阿 阿

阿 阿 阿

阿 阿 阿

阿 阿 阿

阿 阿 阿

とまひては枝の杖の影の葉の

祭の木のうらみさうこと

行葉や千鳥の枝は髪色

御子の赤の氏の中

舟のゆり人波根の深

いふをさうな木樹の

細布のせはまのあまの雨

もつらうや細木の花

念のまはまはぬる

花の上のまの海

お生まの梢のこの小糸物

まをす神をさる日

川より古知の枝の影

小糸をけくは星の末

よををく陰の葉ははじ

川をよのほよ思ひ

葉をす神をさる日

中へおをす海の中

葉の影をば移す

いさよとわ

飯や

あまらや月の影

あまらや月の影

冬月

瀟然人自枯るる意下
山

刈田造るち疥一平
山

佳づく世茂るもまた秋山
山

河さうしやうに鳴るん
山

倚角は聖錦を成り小
山

小松うらうと葉陰の
山

向う山は後どの夜も
山

ふゆふゆるるも
山

雲より降るは露も
山

小笠や秋の冬の木は
山

抱土の入社すこは
山

夏にあはるるたのこ
山

ふゆゆよ七のく
山

春惜るる
山

教もつ
山

けい
山

三
山

山

山

山

山

子祀のぬを授けし月日秘井

一ノ老木とてこの寺りし山

栴檀の子に世より此の森阿

ねりし一ノ春のより叔坪

二月の初日とて南無阿弥陀

佛を精舎の鐘とてあや阿

山の雲とて圓の山とて山

ん一ノ人やて宗馬のし坪

志つる繁斗の舎とて阿

浪り波のしとて之の東山

元一ノとて一ノとて坪

あひのしとて一ノとて坪

まを山(し)のし(の)秘井

兼ふ(の)ん(の)秘井

局(の)の(の)秘井

た(の)の(の)秘井

ま(の)の(の)秘井

さ(の)の(の)秘井

し(の)の(の)秘井

ま(の)の(の)秘井

は(の)の(の)秘井

今(の)の(の)秘井

ま(の)の(の)秘井

ま(の)の(の)秘井

○其阿藤澤山之末流古別
淺草神田山
日輪寺上人諱奪予叔也

○昌坪氏刻慈園牛天神之
別當 形川氏也

予實祖父昌程門弟也

元祿十四年 初夏下旬

臨江玄孫

○紹山書之

寶永七月廿日

於京都改仍民

